

臨床研究「当院における先天性 QT 延長症候群合併妊娠の周産期管理についての後方視的研究」について

筑波大学附属病院産婦人科では、標題の臨床研究を実施しております。本研究の概要は以下のとおりです。

- ① 研究の目的：遺伝性不整脈である先天性 QT 延長症候群（以下、先天性 LQTS）は、心電図上 QT 時間が延長し、心室性不整脈による失神や心臓突然死に至る危険性があります。妊娠・出産が不整脈の誘因の一つとなり、特に、出産後に不整脈を起こす危険性が高いと言われています。その発生を避けるために、β遮断薬が有効であると報告される一方で胎児への有害事象も懸念されています。また、胎児も先天性 LQTS である可能性があり、心室性不整脈から子宮内死亡に至ることがあります。さらに、乳幼児突然死症候群の原因として先天性 LQTS が注目されており、早期診断が望まれます。当院では、周産期の母体心イベントを予防するために、新生児科、小児循環器内科、循環器科と連携し、先天性 LQTS を合併する妊婦さんに対してβ遮断薬を積極的に導入してきました。さらに、定期的に赤ちゃんの心臓の検査を行い、出生前診療に努めてきました。本研究では、当院で診療した先天性 LQTS 合併する妊婦さんを後方視的に検討することで、より良い周産期管理を提案することを目的としています。
- ② 研究対象者：当院で 2001 年 1 月～2022 年 3 月までに出産された先天性 LQTS の妊婦さん
- ③ 研究期間：倫理審査委員会承認後～2023 年 3 月 31 日まで
- ④ 研究の方法：診療情報（下記⑤参照）を匿名化（誰の情報か直ちに判別できない状態）し、解析します。
- ⑤ 情報の項目：母体年齢、母体体格、基礎疾患、家族歴、既往歴、妊娠・分娩歴、生活歴、妊娠前の LQTS の治療歴、遺伝子型、妊娠・分娩経過（心イベントの発生、妊娠中β遮断薬服薬状況、心電図所見、分娩結果）、児経過（胎児心磁図所見、出生後の診断）
- ⑥ 情報の第三者への提供について：ありません
- ⑦ 情報の管理について責任を有する者、研究責任者
所属：筑波大学医学医療系 臨床医学域 婦人・周産期グループ
役職：教授
研究責任者名：濱田 洋実
- ⑧ 本研究への参加を希望されない場合：妊婦さんや妊婦さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までご連絡下さい。なお、すでに研究結果が公表されている場合など、ご希望に添えない場合もございます。
- ⑨ 問い合わせ連絡先
筑波大学附属病院：〒305-8576 茨城県つくば市天久保 2-1-1
所属・担当者名：産婦人科 担当 西田 恵子
TEL：029-853-3073（産婦人科医局）平日 9-17 時